

平成25年度「使える英語プロジェクト事業」公開授業及び研究協議会の報告書

市町村名 大東市

実践研究校名 住道中学校

【公開授業】公開日：平成26年1月22日

※住道南小学校、泉小学校と合同開催

対象学年：1年

(教材・教科書名) NEW HORIZON (单元名) 「日本の中学校生活」を伝えるビデオレターをつくらう	(本時の指導の目標) 1. 「日本の中学校生活」について知っている語句や表現を用いて工夫して書く。 2. 「日本の中学校生活」について聞き手が理解しやすくなるよう工夫して話す。
--	--

(本時の授業において工夫した点)

- ・生徒が発表しやすいように ICT 機器をうまく活用した。
- ・ふり返しシートに本時の目標を提示し、何をがんばればよいか、分かるようにした。
- ・知っている語句や表現を用いて、工夫して書けるようなモデル文を提示し、例題をグループごとで考えるようにさせた。

(授業を終えた教員の感想)

- ・発表の際、相手を意識した発問を考え、相手に伝えようとする姿を見ることができた。もっと英語の発音やイントネーションについて指導する必要があると感じた。
- ・英和辞典の使い方を指導し使用しているが、和英辞典を使えるように指導していきたい。

【研究協議会】

(テーマ) コミュニケーションの喜びが実感できる授業をめざして	(指導・助言者) 大阪府教育センター 教育課程開発部長 蛭田 勲 先生
------------------------------------	--

(研究協議会で出された意見)

- ・生徒が積極的に取り組み、ALT や教員の英語を理解し活動できていた。
- ・帯学習で行っている英語の歌やチャンツが定着していて、グループ内の役割を生徒がきちんと果たしていた。
- ・授業の開始時に実施する small talk による Q&A は、授業への参加意欲を高める方法としてよい取り組みである。
- ・普段の授業でも発表する機会が設けられているためか、生徒が発表に慣れていた。
- ・モデル文を示す→書き方を示す→簡単な例題でグループごとに考え発表をする、という手順を踏むことで、自分たちのテーマで書こうとする際に書きやすいということがわかり参考になった。

(まとめ)

1. 目標と評価規準を明確にすること
指導と評価の一体化を行うこと
形成的評価と肯定的評価を効果的に行うこと
4技能＋考える力を身につけさせる授業を工夫することが大切である。
2. 子どもにつけたい力をイメージできているか。そのイメージの具現化に向けた授業づくりになっているか。
3. 思考場面が設定され、知的負荷がかかっているか。
4. ふり返しシートの活用について。
 - ・できれば授業のはじめに配布。
 - ・感想だけでなく、本時のねらいに対する達成度を評価。授業の中で「分かったこと」「気づいたこと」等の認知面を言語化させる。
 - ・情意面に関わる表現は「関心・意欲」として評価。
 - ・ふり返しシートは、すなわち授業評価でもある。
5. デモンストレーションの意義について。
 - ・到達目標を確認するためにも重要な時間。
6. 「ほめる」と「ねぎらう」ことの違いについて。